

Clinical and Pathological Features of Plasma Cell-Rich Acute Rejection after Kidney Transplantation

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長谷川, 純平 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032114

主論文の要旨

Clinical and Pathological Features of Plasma Cell-Rich Acute Rejection after Kidney Transplantation (腎移植後に発症した形質細胞浸潤型拒絶反応に関する臨床病理的特徴)

東京女子医科大学大学院
外科系専攻泌尿器科学分野
(指導：田邊一成教授)
長谷川 純平
Transplantation に受理

【要 旨】

形質細胞浸潤型拒絶反応(PCAR; Plasma cell-rich acute rejection)は、移植臓器への成熟形質細胞の浸潤を特徴とするまれな臓器拒絶反応の亜型である。PCAR の報告は限られており、その病態や臨床像は不明な点が多かった。本論文では腎移植患者を移植後に PCAR の有無で比較した観察研究を行い、その臨床、病理像を比較した。腎移植患者 1956 人中 40 人が観察期間中に PCAR を発症した。PCAR 発症した患者では、検腎移植が多く、移植術中の総阻血時間が長く、血液型不適合移植が少ない傾向を示した。多変量 COX 回帰分析では、PCAR の発症は移植臓器喪失の独立したリスク因子であった。PCAR を既存の Banff2015 で病型分類した場合、病理学的には全ての拒絶反応のパターンを示すことが分かった。また、抗体関連型拒絶反応の病理像を示した症例で有意に移植臓器喪失が多かった。これらの結果は、PCAR の発症は移植臓器喪失の独立したリスク因子であり、多様な病理像を示すが特に抗体関連型拒絶反応の病理像を示す症例が予後不良であることが示された。